平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0572505931
法人名	医療法人　薫風会
事業所名	認知症老人グループホーム　元瀧荘
所在地	秋田県にかほ市象潟町小滝字麻針堰19
自己評価作成日	平成23年8月29日
評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

本人の要望を聞く事を最も大切にし、出来る限り実現するように努力している。

行きたい所があれば、計画を立て実行できるようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成23年9月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

毎朝、利用者個々の状況を詳細にわたり申し送りしており、些細な変化も全スタッフが共有できる体制にある。近隣に法人の医療機関があり、法人内の伝達網や報知器の共有、無線機器の活用により、迅速な緊急時応援体制を確立している。ホームは本郷地区自治防災組織の一員であり、地域消防団との連携が密である。ホーム全体としての外出の他、個別レクと称した個々の希望による外出等を支援しており、ハーブワールド・あじさい園・山菜とり等多種多様になっている。食堂にある介護用の高さ調整可能な食卓や利用者に合わせた高さの椅子は、家庭的で違和感がない。台所と食堂が仕切りのないオープンな造りであり、調理や片付けの過程で各々に応じた利用者の参加が確認できた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、代表者、管理者が中心となり理念の実践に取り組んでいる。	法人の理念に基づき、開設当初にスタッフ全員で作成したホームの指針及び介護指針が食堂兼談話室に掲げられている。日常の業務の中で地域密着型サービスの意義を全スタッフが共有するよう実践している。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は利用者同伴で出掛ける。 美容院は馴染みの所に行く等、 可能な限り、近隣住民と顔合わせの機会を多く持つようにしている。	地域の新年会・敬老会等を通しての交流の他、利用者全員が保育園の運動会を観戦し、種目にも参加している。交流の中で、地域の住民が車椅子の移動介助を自然に手伝ってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域町内会の新年会、敬老会に代表者を招待いただき、その中で施設概要をお知らせする機会を頂いた。 過去には、保育園の運動会等行事に参加させいて頂き、地域の方々に理解を得た。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を開催できていない。 今後最も取り組んでいかなければならない課題である。	利用者の退居に伴い、家族代表者の欠員が生じたことから、前回の外部評価結果を踏まえて、全家族に協力をお願いした。現在、1名の方に承諾をいただき、参加を得ている。	市の中心部より離れている等の地域の特性もあるが、事業所として工夫を重ねている。今後も、地域住民代表や家族代表の参加促進について、更に工夫していくことが期待される。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との直接のやり取りは無いが、同一法人内の居宅介護支援センターを通じ、空床状況等の情報は伝えてる。	隣接する同法人の居宅介護支援センターを介し、市の担当者と日頃から実情報告や相談を行い、協力関係を構築している。運営推進会議には、市の担当者が毎回参加している。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束の弊害を理解し、拘束の必要が無いケアの実践に努めている。	認知症の症状による特殊な事情がない限り施錠はせず、センサーも夜間等限られた時間のみの利用としている。また、ホームで点滴が必要な際には、安全確保のために見守りを強化し、身体拘束を行わないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い「業務に追われ、止むを得ず、自覚のないまま」不適切なケアが無いよう注意喚起している。 職員がお互いに注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで事例は無いが、必要に応じて対応できる準備はある。 代表者は自立支援法における相談支援従事者、サービス管理責任者である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を用い、利用者、家族に十分な説明又は聞き取りを行い理解・納得の上で契約締結をしている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望及び苦情等の相談の仕組みについて、重要事項説明書、入居契約書に明記している。 現在のところ意見、要望等は特に無いが、あれば運営に反映してきたい。	家族等の訪問時や電話でのやりとり、利用者の口調や様子等から意見や要望を汲み取るよう努めている。毎日の申し送りやケア会議でも、詳細に要望等を取り上げ業務に反映させる努力をしている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り等で意見や要望を聞き、全職員で検討し取り入れて行く様にしている。	事業開始から１１年が経過し、利用者の症状の進行により徐々に介護量が増加してきている。その対応に、事業所はスタッフの意見を反映させながら様々な工夫を重ねいる。	今後も、スタッフの意見を反映させながら、具体的なサービス内容の変更や工夫を継続していくことが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況の把握の為に個別に聞き取りの機会を設けている。 法人全体では親睦の機会を設け、事業、職種間での交流を図り、個々での抱え込みが無いように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等には出来るだけ平等に参加し、伝達研修は必ず実施するよう指導している。 有資格者は資格を希望する職員に対して助言、トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県、由利本荘・にかほ地区のグル―プホーム連絡協議会に加入。 研修会参加や情報交換の機会を多く持ち、互いのサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際しては時間をかけ、家族、本人の思いを聞き少しでも多くの要望を取り入れ、又不安を解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩と尊厳をもって接している。 我々がわからない、家事、畑作り、季節行事等教わることが多く様々な場面で活かされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の現状や生活状況等適宜連絡し、家族からの協力で精神安定が図られるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には使い慣れた日用品、馴染みの物を持ち込み安心して生活できる環境作りに努めている。 本人が慣れるまでは職員が寄り添い他の利用者との交流等目を配っている。	地域の友人が訪ねて来たり、馴染みの美容院へ送迎したり、地域性を考慮しながらもできる限り馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援している。近場の観光地等へのドライブも頻繁に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業、余暇時間には利用者同士の関係が円滑に出来る様に支援している。 日頃の会話にも職員が気に掛けながら介入している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じていつでも気軽に相談をしていただけるような体制は出来ている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で触れ合う機会を多く持ち希望・思いを把握するよう努めている。 会話、表情等からも思いを察し確認するようにしている。	事業所の行事の他、個別レクと称した個々の希望による外出等を支援しており、ハーブワールド・あじさい園・山菜とり等多種多様に行っている。事業所の畑では、トマト・人参等多くの野菜が栽培され、利用者からスタッフが指導される場面もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から詳細に情報を頂いている。 入居中も本人の話の中や家族の面会時に聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅での生活のスタイル、暮らしぶりを理解して出来そうな事をみつけ、本人本位の生活をして頂いている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から要望を取り入れながら、職員でカンファレンスを行い介護計画を立てている。	毎朝45分以上かけて利用者の状況を詳細に申し送りしている他、介護支援専門員を中心とした個々の介護計画作成のための時間を設けている。利用者・家族・関係者・看護師を含めたスタッフの意見やアイデアを基に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子介護記録に残して職員間で情報の教養を図り、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域民生委員に地域の行事予定等情報をお願いしている。 可能な限り参加し、地域での暮らしを楽しんで頂きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を継続するか、事業所の協力医に変更するか相談の上決定している。	希望により馴染みのかかりつけ医を選択できる配慮がなされている。治療への判断が必要な場合は、受診時に家族の同伴を働きかけている。近隣に法人の医療機関があり、緊急時の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回契約看護師が健康管理や医療的な支援を行っている。 契約看護師が不在の場合は併設介護老人保健施設の医師、看護師と相談出来る体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中医療機関との情報交換をして家族にその都度伝え、利用者には心身への負担にならぬよう、安心して治癒できるように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族、主治医と話し合いを設け、今後の対応を検討しながら方針をたてている。 終末期に関しては、希望により、併設の介護老人保健施設にてターミナルケアが可能である。	利用者の状況を見極めた上で、「看取りの同意」を得ている。ホームでの看取り実績はなく、法人内に隣接する老人保健施設での対応が殆どである。担当医からの「リスク説明書」と家族の同意も確認できた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを策定し、緊急時や急変時に職員が慌てる事の無いよう研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で消防計画を策定し、有事の際には応援体制が整っている。 避難訓練は法人6回／年のうち、事業所単独で2回／年夜間想定で実施。	ホームは本郷地区自治防災組織の一員であり、地区と消防計画を交換し、特に地域消防団との連携を密にしている。実際に、林野火災等では消防団が迅速に駆けつけてくれた。法人内の伝達網や報知器の共有、無線機器の活用により、迅速な応援体制を確立している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室は全て施錠可能でプライバシーを確保している。 施設内でコンプライアンスルールを策定し、個々の尊厳を損なうことなく対応している。	利用者の状況に合わせた対応が必要ではあるが、居室は全て内側からの施錠が可能となっている。一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望は可能な限り対応する。また表現できない、しづらい利用者には声かけし、希望・嗜好、行きたい場所、やってみたい事等聞き取りしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の個々の体調、状態に合わせて、又利用者の気持ちを尊重し個別にケア出来るよう対応している。 晴天の日には利用者からの希望で急遽お弁当を作りピクニックに出掛ける事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	衣類は本人の好みにあった服を職員と一緒に選んでいる。 事業所内で白髪染めやマニュキュアをしたり御洒落を楽しむ手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好、行事食、郷土料理、旬の物を取り入れ、利用者と職員が準備、調理、盛り付け、片づけを一緒に行い和やかに食事の時間を楽しんでいる。	台所と食堂が仕切りのないオープンな造り、シンクが2台、冷蔵庫も2台あり、笹がきごぼう作りを手伝う等調理や片付けの過程で各々に応じた参加が確認できた。蕗の皮むきは皆さん得意との話がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量を記録し、職員全体が把握出来るようにしている。 利用者の状況によって刻み食、代替品を提供する個別対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き・嗽の声かけを行い、能力に応じ職員が見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日中パット使用にならないように、利用者の排泄パターンに沿って適宜声かけし、トイレ誘導を行っている。	一人ひとりの健康状況を把握しながら、体調不良時以外は排泄の自立に向けた誘導に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や家事作業等により適度に体を動かす機会を作り、自然排便が出来る様支援している。 便秘症の方には主治医の指示のもとに、下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望する入浴時間を確認し、可能な限り本人の希望に沿って支援している。	何らかの介助を要する利用者が殆どであり、見守りによる夜間の入浴は行わず、午前と午後の入浴に切り替えている。可能な限り本人の希望に沿って入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間に決まりを設けず個々の状況に応じて対応している。 眠れない時は話し相手となり、安心して入眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の介護記録に処方箋を添付し、職員が薬の情報が得られるようにしている。 薬の変更、追加等あればその都度職員間で伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の趣味、興味、能力等把握し、家事作業、畑作業等、利用者が喜んで楽しめる様な活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	その日の利用者の希望に最大限応じ、買い物、ドライブ、床屋等個別に対応している。 晴天時に利用者の希望で、全員でマイクロバスを利用しドライブ、観光を行うことも多い。	隣接する同法人の老人保健施設の有するバスが3台あり、申し入れにより利用できる環境にあり、大型免許を有している介護職員もいる。ホーム全体としての外出の他、個々の希望に応じた外出も支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、利用者からの希望がなければ金銭は自己管理で自由に使える状況である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機は自由に使用できる。又各個室には個別に電話回線を引く事が可能。過去には、耳の遠い利用者が家族でFAXでやり取りしていたケースがある。併設施設にて葉書、切手が購入可能。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内にはソファー、テーブル、椅子を配置。その他和室スペースを設け各々心地よく過ごせる様配置。 廊下は天窓から自然光が入り、その下にソファーを配置している。	介護用の高さ調整可能な食卓、介護用の椅子を採用しているが、家庭的で違和感はない。椅子は利用者に合わせた高さに調整している。利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激は感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ダイニングテーブル、ソファを複数設置、又和室、屋外にテラスを設けており、各々思い思い過ごせる環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の持ち込み品には特別な制限を設けずに、使い慣れた日用品、馴染みの物を持ち込み安心して生活出来る環境作りに努めている。	居室には、エアコン・手洗いが備え付けられ、ベッド・タンス・仏壇・テレビ等、使い慣れたものや好みのものを活用し、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。部屋を間違えないさりげない工夫も随所に見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者本人がわかるように「表示」、「置き場所」を工夫し混乱しない様配慮している。		